



代っ子通信

令和6年9月12日

〈第25号〉

校長 平塚智康

子どもたちのたくましく生きる力を育むために

9月3日（火）～6日（金）、1～3年生各学級と特別支援学級で、「子どもたちのたくましく生きる力を育むためのワークショップ」を行いました。そして、9月6日（金）の晩には、保護者・地域の方々を対象に同様のワークショップを行いました。（教職員のワークショップは夏休み中に実施済み。しっかりと子どもたちの声を聴き、勇気づける言葉かけができるようにと研修しました。）

私は、今年で教員になって37年目になります。私が新採の頃は、学校に「不登校」とか「いじめ」といった言葉も定義もなく、子どもたちが元気に学校に来ることが当たり前の時代でした。しかし、子どもたちを取り巻く社会は大きく変化し、今、社会全体が先行き不透明で不安な時代となっています。社会や大人の影響を強く受ける子どもたちの中には、不安感が強く、自分に自信がなかったり、自己肯定感を持てなかったりする子どもがととも増えています。子どもたちのそうした不安感や自己肯定感の低下などが、「不登校」や「いじめ」の原因となっているケースが散見されます。

そこで、私が大事にしたいと思っていることは、子どもたちのレジリエンス(はね返す力、心の回復力)を高めるということです。低学年では今回のCAPワークショップを、高学年では11月の授業参観後の学校保健委員会で、金沢大学准教授・村山先生によるワークショップを実施したいと考えています。

低学年・特別支援学級は、CAPいしかわの先生方によるワークショップを行いました。CAPいしかわは、子どもへの暴力防止の人権教育プログラムを実施している団体です。自治体によっては、全小学校でCAPの人権教育プログラムを実施しているところもあります。CAPの先生方から、子どもたちは自分自身の「安心・自信・自由」を、自分自身で守ることの大切さについて、ロールプレイ（役割演技）などの体験を通して学んでいました。いやなことはきっぱり「いや！」と断る、自分一人で断れない時は友達の力を借りたり、おうちの人や先生に相談するという、SOSの出し方についても学びました。

保護者ワークショップでは、同じくCAPいしかわの講師の先生方から、現代の子どもの置かれている社会的背景や子どもたちの心理、そして、子どもたちに「安心・自信・自由」を与え、勇気づけるために、親や大人がどのように子どもの話を聴いたらよいのか、どんな言葉をかけたらよいのか、などについて具体的に学びました。参加いただいた保護者の皆様、地域の皆様、ありがとうございました。



〈低学年のワークショップの様子〉



〈保護者ワークショップの様子〉